

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 19日

1. 職名・氏名 准教授・池本 裕行

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年 2013年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 日本経済史（4単位） 2年生
②内容・ねらい	江戸時代から現代までの日本経済の歴史と特色について講義を行うことで、その基礎的な歴史過程を説明できるようになるとともに、日本経済を長期的（歴史的）視点で考える姿勢を身につけることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義では、事前にその内容を記したレジュメを配布したが、昨年度までと同じく、集中して説明を聞くことができるように、空欄は設けなかった。レジュメを印刷して授業に臨みたいとの受講者からの要望を受け、配布するタイミングを早めた。また、内容の理解を深めるため、写真等のビジュアル資料も用いた。さらに、庶民の生活や環境と経済の関係のように身近なテーマを扱うことで、関心を高めてもらうようにも努めた。毎回講義の最後に時間をとって課した出席レポートについては、翌週までに確認し、翌週の講義冒頭で講義内容の補足説明や質問への回答を行った。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位） 2年生
②内容・ねらい	入門レベルの文献の輪読を行い、大学での今後の学習において必要となる、本や資料からレジュメを作成し、発表するスキルの習得や、歴史研究の方法論について理解を深めることを目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	テキストの輪読では、丸写しにならないように、またレジュメ作成の経験がほとんどないことを踏まえて、その分量について上限を定めるとともに、各自に改善点などを指摘した。輪読では、史料の性質や史料調査といった歴史研究の基礎について説明し、その方法論について理解を促進した。さらに、江戸時代における人間と動物の関係を扱ったテキストをとりあげて解説を行った際には、内容の理解を深めるためにDVDも教材として併用した。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 外書講読（2単位） 2年生
②内容・ねらい	日本経済史に関するテキストを分担して輪読を行い、英語の文章を正確に読んで、理解できるようになることや、日本経済の歴史に関する専門用語を理解できるようになることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
日本史を研究している海外の研究者が執筆したテキストを輪読したため、見慣れない使われ方をしている用語が多く出てきた。そのため、文法だけでなく、そうした用語にも注意しつつ和訳を丁寧に確認した上で、内容の補足説明を行うようにした。また、内容の理解を深めるため、DVD も教材として併用した。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅰ（4単位） 3年生

②内容・ねらい
日本経済史に関するテキストの輪読と、各自の研究テーマに関する報告を行うことで、日本経済の歴史について理解を深めると同時に、先行研究を踏まえて自分の研究テーマを見出すことを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
テキストの輪読では、その丸写しにならないようレジユメの分量について上限を定めたり、報告者以外にも積極的に意見を述べることを促したりして、発表力、表現・発言力の養成を図った。なお、テキストは受講者と相談して決めるようにして、関心を持てるテーマのテキストを読むように努めている。また、グループに分かれてテーマを決めて研究を行い、それを4年生も参加した報告会で発表することで、研究の流れを実感してもらうように努めた。その後、自分の関心のあるテーマの文献を読んで報告し、次年度の卒業論文・研究に速やかに取りかかることができるように準備を整えた。

さらに、テキストで学習するだけでなく、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、瀧谷寺や北前船主の館右近家、御食国若狭おばま食文化館、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館、金沢城などを見学した。

【フィールドワーク等 5件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
演習Ⅱ（4単位） 4年生

②内容・ねらい
「演習Ⅰ」を通じてゼミ生が見出した研究テーマの個別研究報告とテキストの輪読を中心に進め、自らの研究テーマについて、史料調査・分析を行い、卒業論文・研究としてまとめることや、その研究内容を他者にわかりやすい形で発表できるようになることを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
ゼミ内で行う卒業研究発表会に向けて、各自の研究テーマについて調査・分析を進め、定期的に進捗状況や新たに調べた内容を報告するようにした。その際、お互いの研究に対して意見を述べることを求め、発表や議論の経験を積んでもらうように心がけた。また、テキストの輪読では、歴史学の最新の研究成果とともに、卒業論文・研究を進める上で役に立つような歴史研究の分析手法を学ぶことができるようなテキストを選んだ。

さらに、史跡等を実際に見て学ぶために、学外でのフィールドワークとして、氣比神宮や越前陶芸村、熊川宿、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館、相倉合掌造り集落などを見学した。

【フィールドワーク等 5件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
日本経済史特論（2単位）（大学院）

②内容・ねらい
近年刊行された、近世の庶民の暮らしに注目した専門書をテキストとして輪読を行い、日本経済で起こっている問題について、歴史的視点から考察できるようになることや、歴史研究の分析手法・史料調査の方法について理解することを目指す。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

受講者が少数であり、また留学生も含まれていたため、受講者の関心に即したテキストを選び、内容の補足説明や質疑応答を丁寧に行うことで、その理解を促進した。

(2)その他の教育活動

2022年5月、10月、就職活動を支援するため、ゼミ内で3年生が4年生に就職活動体験について相談する就職相談会を実施した。

2022年6月、12月、就職活動を支援するため、ゼミの3年生が社会人として働く卒業生に就職活動体験について相談する就職相談会を実施した。

2022年9月、福井県永平寺町で行われたラーニングワーケーションにゼミの3年生とともに参加した。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	【0件】
⑤その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 ・科研費（若手研究B） 研究課題：「近世日本社会における死亡構造の地域差に関する研究」（課題番号：17K18216） 2017～2022年度、研究代表者：池本裕行	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

⑥令和4年度福井県立大学公開講座

「江戸時代の富山～山村の人々はいかに生きたのか～」、Zoomにて開催、2022年12月

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

- ・ 入学試験本部（2022年度～現在に至る）
- ・ オープンキャンパス委員（2022年度～現在に至る）
- ・ 1年生相談担当教員（2022年度～現在に至る）

(3)学内行事への参加

- ・ 来場型オープンキャンパス（2022年8月）
- ・ Zoomによるオンライン交流会（2022年8月）
- ・ 高校向け入試説明会
（武生商工高校、2022年7月）（啓新高校、2022年7月）（武生高校、2022年7月）
（福井商業高校、2022年9月）（蒲郡東高校、2022年11月）

(4)その他、自発的活動など